

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200083		
法人名	有限会社 総合建設		
事業所名	グループホームいしくら(A棟)(B棟)		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字高田21-7		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>建物が広く、ゆったりと過ごすことが出来る。2ユニットの為、ユニット間で行き来したりして交流出来るようになっている。室内でもユニット間を周り、散歩や歩行訓練が出来る。駐車場が広く、外でのイベント等が行いやすい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>食事が楽しみとなるよう、季節の食材を多く取り入れ、彩りよく盛り付けられており、入居者に喜ばれている。介護では、日常生活における身体機能を少しでも維持するため、入居者個々の状態に配慮し実践されている。</p> <p>職員は、毎朝事業所内の清掃を行い整理整頓に努め、清潔感のある空間を創り出している。日中入居者が過ごすホールは、特に天井が高く開放感があり、窓からの光がよく射し込み明るい雰囲気を持った憩いの場所となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、ホール、事務所に掲示しており、朝の申し送り後毎日確認するようにし、職員全員が理解して仕事に入れるようにしている。	朝の申し送りの際に、勤務者が理念を唱和することで共通認識となるよう努めている。開設当初から掲げており、馴染み深い言葉となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加してもらったり、ボランティアによる歌や踊りなど披露しに来てくれたりしている。コロナなどもあり、現在はあまり出来てはいない。	コロナ禍のため、例年行われている中学校からの職場体験やボランティアの受け入れを実施していない。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議で地域の方々の参加をお願いし、認知症の方々への理解を深めてもらえるように話し合いの場を設けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でイベントや状況などを報告し、色々な意見をもらったりしている。	コロナ禍のため各委員あてに、入居者の状況、近況報告、ヒヤリハット報告、職員研修報告等の資料を送付し代替えとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあればその都度連絡を取り、対応してもらったり、指導を頂いたりしている。	生活保護受給者がいることから、その担当者が月1回来所するため、入居者や事業所の状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや外部研修の資料を用意しており、いつでも閲覧できるようにし、身体拘束について日々考えながら取り組んでいる。	虐待防止をテーマに職員が研修講師を務め、手作りの資料を活用し内部研修を行い理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等の資料をいつでも閲覧できるようにし、虐待防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をいつでも目が通せるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には不安や疑問点を確認し説明している。また、入所後も同様にいつでも意見が聞けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時にご家族にモニタリングの用紙を送付し、意見や要望を聞いている。また定期的にご家族にアンケートをお願いし、職員の成長や仕事の質の向上に活かせるようにしている。	前回の評価終了後、入居者や家族が意見を話しやすくなるよう「ご家族アンケート」を実施している。その中で出された意見を踏まえ、入居者の写真と近況を添えたお便りを作成し送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時などに職員の意見を聴いたり面談等行い話を聴くようにしている。	月1回のミーティング、年1回の経営者との面談を中心に、意見を出し合ったり、話しやすい雰囲気がつくりだされ、チームワークの良さに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、対応するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の指導をその都度行っている。その他研修(内部、外部)の機会を設けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なるべく研修の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や施設での訪問面接や、本人、ご家族のホームへの見学の場を設けて入居に対して理解し、納得してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方に直接、不安に思っていることを、困っていること等を聞いたり、こまめに話をするようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑での野菜作りや、台所仕事(調理手伝い、食器拭き等)それぞれの出来る事をできるだけやれるようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方とこまめに連絡を取り、本人の状態などを伝え、共有するようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家の近所の方や友人、知人などの面会時は時間等気にせずゆっくりと過ごせるようにしている。	家族や知人との面会は、玄関先の窓越しとなっている。以前から利用している理容室が、事業所に来所したり、送迎してくれるなどの配慮をしてくれている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべくレクリエーションや行事等に参加して頂き、利用者同士が関わりやすいようにしている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後の経過報告もあり、家族より相談を受けることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人と話をし、出来るだけ情報を集めて、本人の希望などの把握に努めている。	入浴介助中には入居者と1対1になることができ、話が盛り上がるとのこと。介護度が上がるなど、思いを確認しづらい場合には、家族からの情報を元に生活状況を観察している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で情報を聴いたり、ご家族様の話を聞いたり、集まった情報を職員全員で共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りなどで現状の確認、把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活状況や意見、家族の意見等を介護計画に反映するようにしている。	モニタリングの他、家族の要望や職員視点の評価を用いて、介護計画の作成に取り組んでいる。出来上がった計画は、利用者毎にファイリングされ職員がいつでも閲覧できるように職員室の棚に置かれている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態や様子を記録し、ケアカンファレンス時にそれぞれの状況を再確認し、実践や介護計画に活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問や地域行事への参加を増やせるようにしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診察が出来るように支援している。また、家族や本人の意思での病院選びが出来るように努めている。薬のことなど相談できる薬局がある。	能代市にある病院への通院や近隣の病院の往診を活用し、かかりつけ医への受診を継続している。配達可能な薬局を利用したり、入居者の状態に合わせ歯科往診を利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の在籍はないが、協力医とかかりつけ医などと連携が取れるように努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、本人の情報を医療機関に提出し、早期の退院に向けて定期的に面会、連絡をとり、情報交換や相談等を行い、退院後についても考えている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人やご家族様には文章を渡し、説明をしている。本人の状態の変化を見ながら、ご家族様とは今後の事などその都度話し合うようにしている。	かつては入居者と家族の要望から終末期の支援を行っていた時期もあったが、現在の職員体制から、看取り支援を実施していないことを説明し理解を得ている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し全員が閲覧できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回行うようにしている。近隣住民の方にも協力をお願いしている。	消防署職員を退職した近隣住民がおり、アドバイスをもらうこともある。飲料水、アルファ米、お菓子を備蓄し、発電機を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段から配慮するようにしている。職員同士でも確認し合っている。	入浴時の同性介助の意向を確認したり、お便りの写真掲載の可否等に配慮したりしている。ヒヤリングにおいて、言葉掛けをしてから介助するよう心掛けているとの言葉が聞かれた。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が気兼ねなく意見や考えを伝えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意見や様子などをみて、出来るだけ自由に過ごせるよう努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を優先するが、自己決定が難しい入居者に関しては職員が選んだり、考えたりして決めている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に準備をしたり、後片付けをしたり出来るときはするようにしている。	コロナ禍と介護度が相まって、外食の機会がなくなってしまったことから、普段から、盛り付けや彩りの良いおかず作りに意識を置いている。職員から季節の野菜や果物の差し入れがあったり、山菜の下ごしらえを入居者と一緒に行ったりすることがある。 咽やすい入居者には、おかずを刻んだり、水分にトロミをつけたりするなどして、食べやすい食形態で提供している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事量や水分量を把握し、安全に楽しく食事が出来るように調理方法や形態、盛り付けなど工夫して提供するようにしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日声掛けを行い、見守り、介助を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、それぞれにあった声掛けや、時間をみて誘導、介助を行っている。	チェック表から入居者個々のタイミングを把握し、トイレに誘導し排泄できるよう支援している。 スムーズな排便のため、起床時に牛乳など水分補給を促し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や適度な運動を行っている。必要に応じて主治医へ相談したり服薬管理している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や意見を聞き、その日の体調などをみて入浴支援している。	日曜日以外、毎日入浴する人や週2～3回を目処に入浴する人など、個々のタイミングに合わせて支援している。浴室暖房を活用し、温度差がないよう配慮している。入浴介助中は1対1となることから、入居者の思い等話を聞く良い機会とのこと。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介護記録を活用し、個々の生活パターンを重視した支援を行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報が得られるようにファイルしている。薬の変更などがある場合申し送り等で全員が把握できるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事や出来る事等を把握し、本人の状態をみて軽作業をお願いしたり、ゲーム等行ったりしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞いたり、状態や天候をみて出来るだけ外出(散歩、買い物等)出来るようにし、気分転換等の機会を設けるようにしている。	コロナ禍となる前は、通院後に外食をしたり、春には大潟村で桜と菜の花を見物したりすることが恒例だった。現在は、ドライブで車の窓から景色を眺めてもらったり、近隣の畑の様子見や散歩をそたりして支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホームにて行っている。本人の希望があれば職員が見守り行き、買い物する場合もある。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば対応している。手紙もその都度対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内で、季節に応じた飾りつけなどを行っている。室内温度等を一年を通して快適に過ごせるように調節している。	職員が、朝に事業所内の清掃を行い、清潔保持と整理整頓に努めている。入居者と職員が、壁にあるお月見やハロウィーンの装飾を一緒に作っている。天井が高く開放的で、窓からの光がよく射し込み明るい雰囲気を感じられた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の行動や入居者同士の関係性を把握し、本人の席を決めたりし、過ごしやすいようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が生活しやすいように、持ち込みは自由に行ってもらっている。本人や周りの危険になるような物は説明し遠慮してもらっている。	テレビや馴染みのタンスが持ち込まれ、個々が安心できる空間が作られている。ベッドが備え付けられ、フローリング床の居室となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの場所に目印を付けたり、名前を書いたりして支援している。		